

40th
ANNIVERSARY
Since 1985



2025年7月10日 太陽福祉会は40周年を迎えました。
一人ひとりの想いが法人をつくれます。
太陽福祉会には多くの方の想いが詰まっています。
今までの想いを大切にして、そして次の10年へ。

社会福祉法人太陽福祉会40周年記念誌
発行：社会福祉法人太陽福祉会
発行日：2025(令和7)年7月10日
企画・制作：法人化40周年企画委員会

40th
1985~2025
40th anniversary



太陽福祉社会のめざすもの

1. 障がい者の人権を守り、それぞれの自立と社会参加を支援します。
2. 障がいの程度や種別をこえ、1人ひとりのライフステージに合った支援をします。
3. 地域に根ざした法人づくりに励み、地域のすべての人々と協力して差別や偏見のない地域社会をつくります。
4. 働くことを中心に、人間として豊かな発達と工賃の保障ができる作業所をつくります。

太陽福祉社会職員・倫理綱領

【はじめに】

私たち太陽福祉社会職員は、利用者一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、利用者が豊かで安らぎのある生活を享受できるように、さまざまな職種の知識と技術を駆使して、利用者を支援していくことを責務とします。

私たちの仕事は、利用者、家族の生活および社会に直接かつ大きな影響力を持ちます。そのため、私たちが提供するサービスは利用者等にとって安心して利用できるものとなり得よう、常に利用者等の立場に立って行わなければなりません。

私たちは自他ともに認められる専門職をめざす者として、自らの役割と使命を自覚し、ここに倫理綱領を定め、最善のサービスの提供に努めます。

【倫理綱領】

1. 人生の尊厳

私たちは、利用者一人ひとりをかけがえのない存在として認め、その人なりの人生を大切にします。

2. 人権の擁護

私たちは、利用者一人ひとりの人間としての基本的な権利を守り、いかなる差別、虐待、人権侵害も許しません。

3. 個性、主体性の尊重

私たちは、利用者一人ひとりの個性や主体性を尊重し、自己決定を基本とした支援を心がけます。

4. 社会参加の促進

私たちは、利用者一人ひとりが社会の一員としての市民生活が送れるよう支援します。

5. 生活環境の整備

私たちは、利用者一人ひとりが生活者として快適な日々を過ごせるよう、施設及び周辺環境整備に努めます。

6. 豊かな地域生活へ

私たちは、地域で生活する障害者が豊かな市民生活を送れるよう、一人ひとりのニーズに添った支援を心がけます。

7. 職員として

私たちは、エッセンシャルワーカーとしての専門的役割と使命を自覚し、利用者一人ひとりに適切な支援が提供できるよう、常に自らへの問いかけを怠らず、人間的成長に努めます。



「障害があってもこの地域に生まれて良かった」と言ってもらえる事業所づくりを

社会福祉法人 太陽福祉社会
理事長 皆川敏治

昭和52年4月、3人の障害のある人たちとその家族が教師や行政・地域の方々に支えられて国立療養所和歌山病院の旧看護師宿舎の一室をお借りし太陽共同作業所がスタートしました。その8年後の昭和60年6月に厚生省及び和歌山県より「社会福祉法人 太陽福祉社会」として設立、認可され今年で40周年となります。

現在利用児者300名、職員総数190名の大きな組織として発展してまいりました。

「障害があってもこの地に生まれて良かった。」と言ってもらえるように便利で楽しい地域づくりをしようと考え、ご利用者とご家族のニーズに合わせて事業展開してきた結果であると思います。

今後もしもご利用者から喜ばれ、信頼される事業を堅持し、与えられた任務を全ういたしますことをお誓い申し上げてご挨拶とさせていただきます。



太陽福祉会設立当初理事

古部 宣雄 様

私、「古部宣雄」は太陽福祉会設立に関わらせていただきました。

思えば和歌山病院の敷地の一角を借りて数名の利用者で小規模の作業所を運営しておりました。その保護者、利用者等が将来この日高地方に福祉法人施設が欲しいを悲願に頑張っていました。

やがて昭和60年(1985年)、厚生大臣より社会福祉法人太陽福祉会としての設立認可をいただきました。今年(令和7年)に40周年を迎えることとなり誠に喜ばしい限りであります。ご承知のように、初代施設長をされた片山茂樹氏、また、理事長であった田ノ岡満氏、このお二方が爾来血のにじむような努力が実を結んで今日の姿、太陽福祉会に発展したのであると私は特筆したいのであります。もちろん、当該法人の役員を引き継がれた方々、また障害者福祉に情熱をもって取り組んでおられる職員の皆様の懸命な努力の成果であると思います。

各自自治体及び各種団体等との関係も良く、各地に必要な事業所・施設も増え、その規模も大きくなっています。

これからも障害が理由に一般企業での就労が難しい人々が、安心して利用できる受け皿としての施設として50年、100年に向かって進展されますよう祈念して、ご関係の皆様に敬意を表しつつ挨拶とさせていただきます。

今後ともよろしくお願いいたします。



一般社団法人和歌山県セルフセンター代表理事

山添 高道 様

創立40周年を迎えられたこと誠にありがとうございます。

一言で40年といってしまう簡単ですが、これまでの日高地方での障がい者福祉を追及されてきたことに改めて敬意を表します。

中でも重度障がい者に対応するグループホームの運営や地域に根差したリサイクル事業、パンや塩など生活面でも就労面でも力を入れてきているように思っています。本当にご苦労様です。

私は、1977年に太陽共同作業所が設立されたころ、森永ヒ素ミルク被害者の救済活動として行われていた「訪問教育」にかかわっていました。

森永のヒ素ミルク被害者である由良にお住いのM君が、太陽共同作業所ができそこに通うようになり大変喜んでいたことを昨日のように思い出されます。M君は新しくできた作業所で皮革製品の製作に関わっていて、ペンシルケースを買ったことを今も鮮明に憶えています。

このように太陽福祉会は、和歌山県・日高地方にはなくてはならない法人として発展しています。また、和歌山県セルフ協、県セルフセンターを支える中心的な法人として、今後も益々発展することを願ってお祝いの言葉といたします。



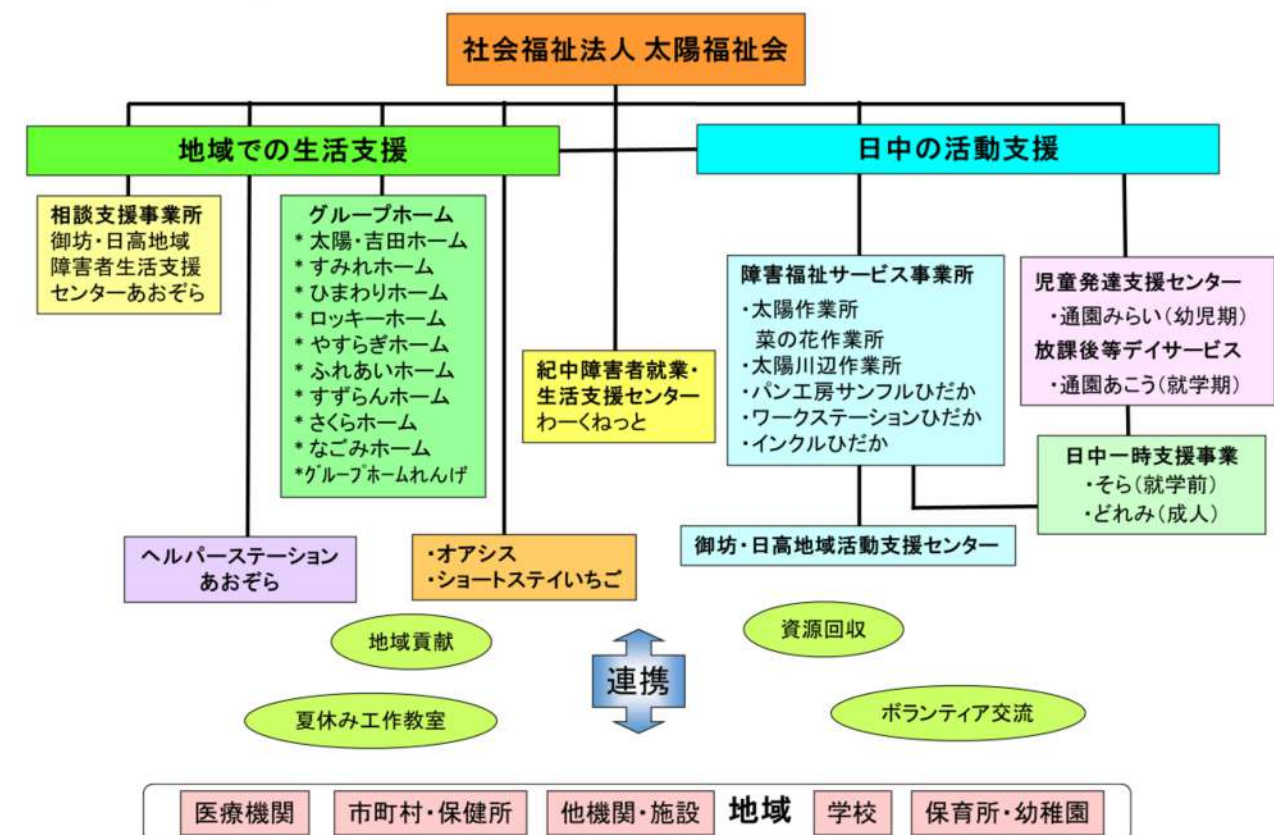
インクルひだか利用者

田嶋 元治 様

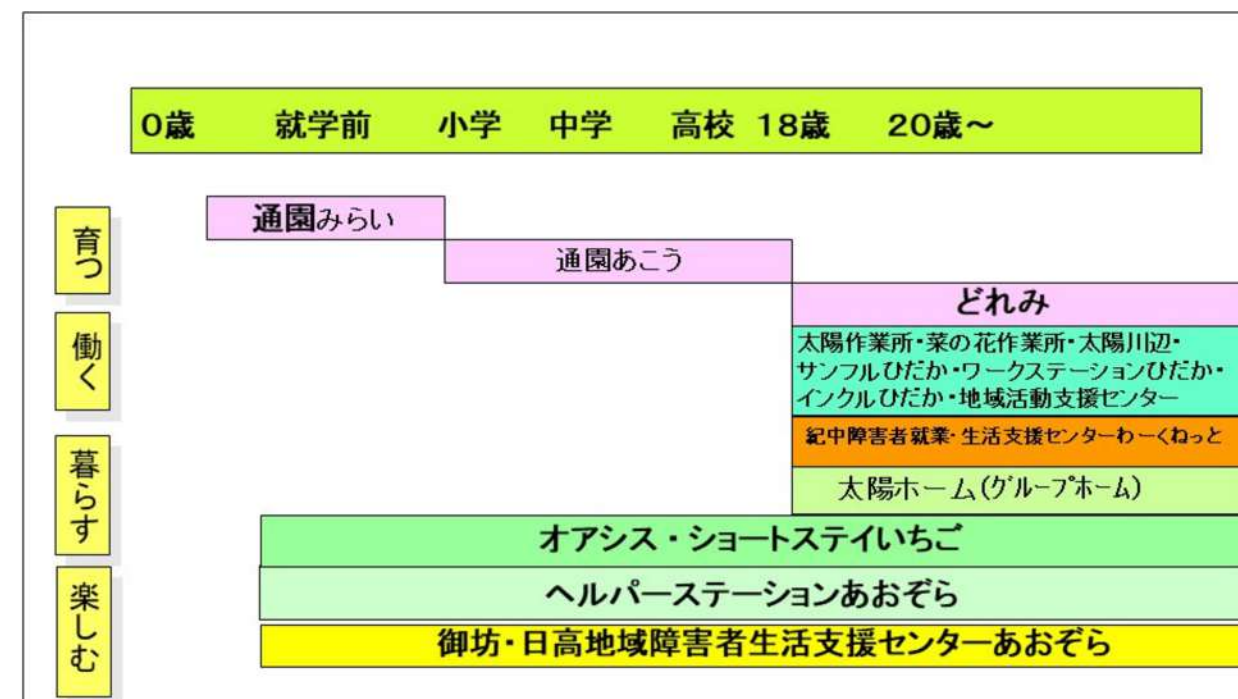
ぼくは、昭和52年3月に、美浜町にある松洋中学校を二十歳で卒業しました。それまでに、卒業後に行くところが決まっていなかったのも、母親と滋賀県にある施設を見に行きました。ぼくは気にいったけど、母親は反対したため、だめになりました。地元にも施設はあったけど、ぼくが嫌でした。

そんな中で、卒業と同時に「太陽共同作業所」ができたので、他の仲間と3人で家から通うことになりました。昭和61年に新しい作業所の「太陽作業所」ができました。きれいな建物でしたが、あまり熱心に仕事をしませんでした。今から10年以上前に、今のなごみホームに入りました。太陽との付き合いは48年になります。いろいろあったけど、よかったと思います。おめでとうございます。

太陽福祉会の概要について



ライフステージに合わせた支援



働く場



太陽作業所（定員 50 名）

障害福祉サービス事業所
○生活介護事業 30 名
○就労継続支援 B 型事業 20 名
(菜の花作業所含む)
主な作業：木工、縫製（ふきん）、資源回収、下請け作業
和歌山県日高郡美浜町和田1138
Tel 0738-22-4885 FAX 0738-22-4875

どれみ（日中一時支援事業）併設

菜の花作業所（就労継続支援 B 型 10 名）
主な作業：製塩作業
和歌山県御坊市塩屋町南塩屋450-7
Tel/FAX 0738-23-3267



太陽川辺作業所（定員 20 名）

障害福祉サービス事業所
○生活介護事業 7 名
○就労継続支援 B 型事業 13 名
主な作業：プリント、下請け作業、公共施設の清掃、農耕
和歌山県日高郡日高川町蛇尾字船木谷476-17
Tel 0738-52-0074 FAX 0738-52-0076



パン工房サンフルひだか（定員 20 名）

障害福祉サービス事業所
○就労継続支援 B 型事業
主な作業：各種パン・焼き菓子等の製造販売
和歌山県日高郡日高町小中521-5
Tel 0738-63-1888 FAX 0738-63-1889



ワークステーションひだか（定員 20 名）

障害福祉サービス事業所
○就労継続支援 B 型事業
主な作業：ペットボトルリサイクル、アルミ缶リサイクル、資源回収、こんにゃく（原こ
ん）作り、清掃業務請負（県行政建物）他
和歌山県日高郡日高町荊木310番地
Tel 0738-20-5179 FAX 0738-20-5280



インクルひだか（定員 20 名）

（障害福祉サービス事業所 生活介護事業）
【事業内容】機能訓練、レクリエーション、入浴機器による入浴等、重度障害者の
日中活動の拠点としての機能を充実させています。
主な作業：軽作業
和歌山県日高郡日高町志賀106-1
Tel 0738-24-9230 FAX 0738-24-9231

育つ



通園みらい(児童発達支援センター)(定員 20 名)

・児童発達支援事業（就学前期）（定員 20 名）
・保育所等訪問支援事業
身体面や精神面で病気のある子どもや、何らかのつまずきで成長や発達が
気になるところのある子どもが、保護者のもとから通所することにより、
独立自活に必要な知識や技能を習得することを目的としています。
地域の福祉等の活動を目的として会議室や集会室等の貸し出しを行ってい
ます。
和歌山県御坊市園500番地
Tel 0738-22-7854 FAX 0738-20-2110



通園あこう〔就学期〕（定員 20 名）

（放課後等デイサービス事業）
障がい児や発達に特性のある児童に生活能力向上のための訓練等を継続的
に提供することにより、自立を促進するとともに、放課後や夏休み等の長
期休暇中の居場所を提供します。
和歌山県日高郡日高町高家631番地
Tel 0738-20-4363 FAX 0738-20-4362

生活・楽しむ



ヘルプーステーションあおぞら

障害者や高齢者の方々への居宅サービスを行っています。
障害児者関係
居宅介護事業・重度訪問介護事業・同行援護事業
移動支援事業
高齢者関係
訪問介護
日常生活支援総合事業（介護予防訪問介護相当サービス）

和歌山県御坊市園27-3
Tel 0738-22-1106 FAX 0738-22-1776



ロッキーホーム



太陽・吉田ホーム



ふれあいホーム



やすらぎホーム



すずらんホーム



ひまわりホーム



なごみホーム



すみれホーム



さくらホーム



グループホームれんげ

太陽ホーム（定員 56 名）

〔共同生活援助事業(グループホーム)〕
地域において自立した日常生活又は社会生活を営むこ
とができるよう、身体及び精神の状況並びにその置か
れている環境に応じて共同生活住居において食事、入
浴、排泄等の介助、相談その他の日常生活上の支援を
適切かつ効果的に行うことを目的としています。

男性ホーム 5 カ所、女性ホーム 5 カ所
和歌山県御坊市内、日高町内

【短期入所事業】
在宅での生活が一時的に困難になった場合に、短期間
入所して、食事提供や入浴等、日常生活の支援を受け
ることができます。

オアシス（定員 2 名）
なごみホーム内（御坊市内）

ショートステイいちご（定員 3 名）
グループホームれんげ併設（日高郡日高町内）



紀中障害者就業・生活支援センター わーくねっと

〈就業支援〉
求職活動、職場定着など就業に関する相談
職業準備訓練、職場実習の斡旋
事業所に対する障害者の雇用管理に係る助言
関係機関との連絡調整
〈生活支援〉
生活習慣の形成、健康管理、金銭管理等の助言
住居、年金、余暇活動など地域生活、生活設計に関する助言
関係機関との連絡調整
和歌山県御坊市湯川町丸山478-1
Tel 0738-23-1955 FAX 0738-32-7052

社会福祉法人 太陽福祉会 法人事務局

総務部門 Tel 0738-32-7086
経理部門 Tel 0738-22-7903

御坊・日高障害者総合相談センター (和歌山県御坊市島369番地)



御坊・日高地域障害者生活支援センターあおぞら

障害児・者やそのご家族の相談に応じ必要な情報提供及び助言、障害福祉サービスの利用支援等必要な支援を行うと共に、関係機関との調整その他障害者の権利擁護のための必要な援助を行い、障害者やその家族の地域における生活を支援し、もって在宅障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的としています。

【指定相談支援事業所】(地域相談支援・計画相談支援・障害児相談支援)
Tel 0738-32-7051 FAX 0738-23-2201

御坊・日高地域活動支援センター

【地域活動支援センター(Ⅰ型)】
地域で生活する障害児・者のみなさんがくつろげる場所です。そして、自立・社会復帰・社会参加などに向けた支援活動を障害のある方やそのご家族に提供します。

【指定相談支援事業所】(地域相談支援・計画相談支援・障害児相談支援)
地域での生活に移行するための相談・支援や緊急時の対応などを行います。
Tel 0738-32-7788 FAX 0738-23-3303

創立40周年の歩み

1977(昭和52)年4月

国立療養所和歌山病院旧看護婦宿舎の一室を借り、太陽共同作業所を開設

1979(昭和54)年11月

和歌山県障害者小規模通所授産事業補助金を受ける

1980(昭和55)年3月

後援会組織「太陽共同作業所を育てる会」発足

1981(昭和56)年6月

御坊市、美浜町により、和歌山病院敷地内の一部を借用し、プレハブ作業所(80, 85㎡)を建設



和歌山病院敷地内の一部を借用しプレハブ作業所を建設(現太陽作業所B型事業所)



作業は、草足下請け、農耕作業、玉通し、資源回収等を行っていました



1983(昭和58)年9月

「太陽作業所法人化推進委員会」発足

1983(昭和58)年9月

法人化に伴う用地の確保及び施設建築に伴う財政援助を請願

1984(昭和59)年8月

国立療養所和歌山病院敷地1, 000㎡の使用許可を得る

1984(昭和59)年9月

社会福祉法人「太陽福祉会」設立発起人会を結成

1985(昭和60)年6月

厚生省より「社会福祉法人」設立許可

1986(昭和61)年4月

太陽作業所完成、法人施設発足(定員30名)



初代理事長の故田ノ岡満氏



初代所長の故片山茂樹氏



念願の太陽作業所が開所 定員は30名

1991(平成3)年11月

木工作業場及び倉庫完成、定員40名となる



利用者の増加に合わせ平成3年木工作業場増設



第5回祭りとバザーが新聞に掲載



定員は40名となりました

1992(平成4)年4月

平成4年度県制度グループホーム「太陽ホーム」開設

1993(平成5)年11月

御坊市商店街に「太陽福祉の店」開設

1995(平成7)年4月

川辺町から土地の無償貸与を受け、太陽川辺分場(定員15名)を開設

1999(平成11)年4月

「太陽川辺分場」を独立施設として「太陽川辺作業所」発足(定員20名)

1999(平成11)年10月

知的障害者地域生活援助事業(グループホーム)「すみれホーム」開設

	    平成5年、御坊市商店街に太陽福祉の店を開店 平成7年太陽作業所川辺分場（定員15名） 平成11年には独立施設太陽川辺作業所となりました（定員20名）
2000(平成12)年10月	知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）「ひまわりホーム」開設
	「日高・御坊地域障害者生活支援センターあおぞら」を開設
2001(平成13)年10月	知的障害者生活支援事業の受託
2002(平成14)年1月	職場適応援助者による支援事業（ジョブコーチ支援事業）の実施
2002(平成14)年7月	身体障害者介護等事業・知的障害者介護等事業・精神障害者介護等事業の開始
2002(平成14)年12月	児童居宅介護等事業・老人居宅介護等事業の開始
	知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）「ロッキーホーム」開設
2003(平成15)年4月	支援費制度スタート、市町村障害者生活支援事業を御坊市から受託
	あおぞらを移転「御坊・日高地域障害者生活支援センターあおぞら」に改称
2003(平成15)年7月	精神障害者小規模通所授産施設「ワークステーションひだか」を美浜町和田に開設
	    平成15年7月精神障がい者の作業所 平成13年「日高・御坊地域障害者の生活支援をすすめる会」が設立される 御坊市内に「Cocoハウス」を開設障害児の預かり保育を始めた 保護者及び「すすめる会」の会員が中心となり、御坊市及び法人に請願
2003(平成15)年9月	居宅介護等支援事業の事務所として「ヘルパーステーションあおぞら」開設
	障害児デイサービス事業「通園みらい」を御坊市熊野に開設
2003(平成15)年12月	知的障害者地域生活援助事業（グループホーム）「やすらぎホーム」開設
2004(平成16)年10月	精神障害者地域生活援助事業（グループホーム）「ふれあいホーム」開設
2005(平成17)年4月	障害児デイサービス事業（就学期）「通園みらいⅡ」を御坊市菰に開設
2005(平成17)年7月	知的障害者通所授産施設「パン工房サンフルひだか」（定員20名）開設
	御坊市「さざなみ会館」管理業務を御坊市から受託
	障害児デイサービス事業（就学前）「通園みらい」をさざなみ会館に移転
	   平成15年9月児童デイサービス通園みらいを開設 平成17年7月にみらいをさざなみ会館へ移転 平成17年7月、日高町内にパン工房サンフルひだか開所

2006(平成18)年4月	紀中障害者就業・生活支援センターわーくねっとを御坊市湯川町に開設
	タイムケア事業「どれみ」を御坊市菰に開設
	「ワークステーションひだか」を障害福祉サービス事業所に移行
	「どれみ」を日中一時支援事業に移行（1市5町受託）
2006(平成18)年10月	「御坊・日高地域活動支援センター」をワークステーションひだかに併設
	「通園みらい」「通園みらいⅡ」を障害福祉サービス事業所（児童デイサービス）に移行
	6つのグループホームを「太陽ホーム」に統合し、障害福祉サービス事業所（グループホーム、ケアホーム）に移行
	「ヘルパーステーションあおぞら」にて移動支援事業を受託（1市5町）
	第58回保健文化賞受賞
	    平成18年に厚生労働大臣から贈られた表彰状 平成18年4月どれみを開所 平成21年4月に児童デイサービス通園みらいⅡ・どれみを旧松原保育所跡に移転 みらい（就学前）、みらいⅡ（就学期）どれみ（中高生・成人）となりました。
2008(平成20)年6月	ワークステーションひだかを日高町荊木のポリテクセンターに移転
	ヘルパーステーションあおぞらを御坊市菰に移転
2008(平成20)年7月	御坊・日高地域障害者生活支援センターあおぞらと御坊・日高地域活動支援センターを御坊市島の御坊・日高障害者総合相談センターに移転
2008(平成20)年9月	「すずらんホーム」を御坊市吉田に開設
2009(平成21)年3月	児童デイサービス「通園みらいⅡ」・日中一時支援事業「どれみ」を美浜町吉原の旧松原保育所に移転
2011(平成23)年4月	「ケアホームなごみ(定員7名)」と「短期入所事業所オアシス(定員3名)」を御坊市島に開設
	「太陽作業所」「太陽川辺作業所」「パン工房サンフルひだか」を障害福祉サービス事業所に移行
2011(平成23)年5月	24時間安心コールセンター「こころ」を法人事務局内に開設
2011(平成23)年10月	「地域移行のための安心生活支援事業」を1市4町より受託
2011(平成23)年11月	「さくらホーム」（定員4名）を御坊市島に開設
2012(平成24)年4月	「通園みらい」を障害児通所支援（児童発達支援センター）に移行
	「御坊・日高地域障害者生活支援センターあおぞら」一般相談・特定相談・障害児相談支援事業所指定
	「御坊・日高地域活動支援センター」が一般相談支援事業所指定
2012(平成24)年6月	「御坊・日高地域活動支援センター」が特定相談支援事業所指定
2013(平成25)年2月	「わーくねっと」及び法人事務局（従たる事務所）を御坊市丸山（紀和ビル）に移転
2013(平成25)年4月	「通園みらいⅡ」放課後等デイサービス指定
2013(平成25)年8月	「やすらぎホーム」を御坊市島に移転
2015(平成27)年3月	「太陽・小池ホーム」を日高町小池に開設
2015(平成27)年4月	「通園みらい」（児童発達支援センター）で保育所等訪問支援事業開設

2015(平成27)年8月

2016(平成28)年4月

2017(平成29)年7月

2017(平成29)年8月

2017(平成29)年11月

2018(平成30)年3月

2018(平成30)年6月

2019(平成31)年4月

2020(令和2)年3月

2020(令和2)年4月

2021(令和3)年4月

2023(令和5)年3月

2024(令和6)年3月

2024(令和6)年4月

「相談支援事業所みらい」をさざなみ会館内に開設

太陽作業所生活介護事業の定員を35名に変更(多機能型太陽作業所定員45名)

通園みらいの定員15名、通園みらいⅡの定員15名に変更

「すみれホーム」を御坊市吉田地内に移転

児童発達支援センター「通園みらい」の定員を20名に変更

短期入所事業所「オアシス」の定員4名に変更

放課後等デイサービス「通園あこう」(定員10名)を日高町高家に新規開設

放課後等デイサービス「通園みらいⅡ」の定員10名に変更

「ひまわりホーム」を御坊市湯川町財部に移転(太陽ホーム定員48名に変更)

「太陽共同作業所」創立40周年記念式典開催

「御坊・日高地域活動支援センター」が障害児相談支援事業所指定

「相談支援事業所みらい」事業所を廃止

「どれみ」(日中一時支援事業)を太陽作業所に移転

放課後等デイサービス統合により「通園みらいⅡ」を閉園

「通園あこう」の定員を20名に変更

「菜の花作業所」(太陽作業所の従たる事業所)を開設

「太陽作業所」の定員を60名に変更(生活介護40名、就労継続B型20名)

「グループホームれんげ(定員7名)」と「ショーステイいちご(定員3名)」を日高町小中に開設

「なごみホーム」の定員を9名に、短期入所事業所「オアシス」の定員を2名に変更

太陽ホーム定員合計57名に変更

「地域生活拠点等事業」を1市5町より受託(緊急時受入、地域生活体験、コーディネート事業)

「そら」(日中一時支援事業)を通園みらいに併設

「太陽・小池ホーム(定員4名・日高町)」を廃止し、「すずらんホーム」の定員を9名に変更。太陽ホーム定員合計56名に変更

「ワークステーションひだか」の就労移行支援事業を廃止

「ワークステーションひだか」就労継続支援B型事業所(定員20名)に変更

「太陽作業所」の定員を50名に変更(生活介護30名、就労継続B型20名)

「インクルひだか」生活介護事業所(定員20名)を日高町志賀に開設



昭和62年からじまった夏休み工作教室



昭和63年7月太陽おもちゃの図書館を開設



太陽作業所開所当時に行っている太陽まつりと太陽バザー



海水運搬車からタンクへのポンプアップ作業(菜の花作業所)

通園みらい の生活



絵本の読み聞かせおもしろい!



プールあそび大好き



絵の具ベタベタ



お芋とれたよ



おいしい野菜ができますように



ママと一緒に夏祭り「これくさい」



お話し楽しいな!!



おもえまだかな〜



給食おいしいな

通園あここの生活



おやつ作り おいしくな～れ！



公園あそび すべり台楽しいな



「あここの木」つくったよ



水族館に行ったよ



クリスマスプレゼント

太陽作業所



新聞社からの下請け作業



難しいところは協力して行っています



軍足（糸切り）作業



製品の確認



軍足（返し）作業



ロープ付け作業



ウェス切り作業



きなりふきん（自主製品）製作中



数珠玉通し作業



ロープ検品

太陽川辺作業所



それぞれの得意を結集して作業完成！



全集中で、がんばってます



プリントで位置取りは重要



黙々と磁石の汚れ落とし作業



大好きなシールはがし作業



テープ貼りは、正確かつスピーディーに



ゆっくりていねいに、コツコツと



削りすぎないように慎重に



新聞紙を丸めて袋詰め
(緩衝材づくり)



プリント後はくっつかない
よう注意

インクルひだか



いろんなスポンジ、楽しくお仕事してます



お仕事のチェックもしっかりとできています



楽しかった作業所旅行！



リハビリがんばってます



パン工房サンフルひだか



成形したパンを運びます



パンを鉄板に並べます



みんなでパンの成形です



パンを袋に入れてます



パンのラベルの確認です



パンにラベルを貼ってます

ワークステーションひだか



再就職目指してがんばるぞ



リング切りがんばるぞ



こんにゃくのばし大変です



こんにゃく作りにはげんです！



楽しくがんばってます

グループホーム

キーパーの皆さん、いつもありがとうございます



みんなと一緒に食べるホームのご飯がおいしいです



なごみホーム
ショートステイオアシス



グループホームれんげ
ショートステイいちご



太陽作業所

生活支援員(介護福祉士) 濱口 真弓

私は太陽作業所で生活支援員として利用者様の作業や生活面での支援をさせて頂いています。利用者様の気持ちに寄り添い、その方が必要としている支援は何か、一人ひとりに合った支援を提供できるよう心がけています。生活面では特に体調の変化に配慮し、利用者様との日々の関わりの中でわずかな変化を察知し、多職種とも連携を図りながらより良い支援の実現に努めています。今後も利用者さんの声に耳を傾け、細やかな気配りをもって、利用者様が安心して過ごせるようサポートさせていただきます。

太陽川辺作業所

生活支援員(社会福祉士) 山根木 翼

今年度より、就労継続支援B型から生活介護を担当することになり、利用者さんが日中より充実した生活が過ごせるよう日々取り組んでいます。作業（下請け作業、シルクスクリーン印刷、公園の清掃、農作業等）やレクリエーションをサポートする中で、利用者さんのできる事が増えてきた時や、新しい一面を知れた時には私も嬉しく思います。また、現在「レクリエーション活動の充実」を目標に職員全員で試行錯誤しながら取り組んでいます。支援について悩むことも多くありますが、一人ひとりのニーズに合った支援が提供できるよう、頑張りたいと思います。今後も、たくさんの経験を通して、より自分自身の視野を広げていきたいです。



パン工房サンフルひだか

職業指導員 岸田 幸弘

私は、ここパン工房サンフルひだかへ入社して4年目となります。担当としては捏ね上がったパンの成形と焼成を利用者と共に行っています。私は元々、専門学校で製パンと製菓について学んでいました。4年前というコロナが流行り始めた頃で就職が難航しており、どこも新卒であっても就職できるところはほとんどありませんでした。当時は自分の将来に不安があり、このまま就職できないのではないかなと思いながら就職活動を行っていました。そんな時、製パンと製菓の両方の作業場がある施設としてハローワークから教えてもらい、太陽福祉会を受けました。なんとしても受かりたいと思い、「普通の製パンや製菓をしているところでは無く、利用者の支援を行う施設ですよ。」と言われましたが、どんな仕事でもと思い「出来ます」と答えました。そうしてその年度の3月の終わり頃よりパン工房サンフルひだかに就職することが出来ました。今は、いろんな利用者と一緒に楽しく過ごし、又、よりよいパン作りをし、皆さんに美味しいパンを届けられるようにこれからも頑張りたいと思います。



ワークステーションひだか

サービス管理責任者 川口 晃生

ワークステーションひだかでは、ペットボトルやアルミ缶、資源回収等のリサイクル、原こん（こんにゃく）の製造販売、官公庁の清掃など、地域とつながる多様な作業を通じて、利用者の社会参加の機会を広げています。また、一般就労を目指す方には、関係機関やご家族との連携を図りながら、職業準備性の向上を目指して職員チームが一丸となって支援を行っています。利用者一人ひとりの歩みに寄り添い、職員間での継続的な情報共有をもとに、安心して作業に取り組める環境づくりに努め、利用者の意欲と成長をしっかりと支えています。

インクルひだか(生活介護)

作業療法士 中橋 太郎・松本 美月

当事業所は、法人では初となるリハビリテーション専門職の配置を行った上で、主に、障害支援区分5～6程度の方々にに対し、歩行・移乗等の基本的動作能力の練習や、入浴・食事・排泄等の応用的動作能力ならびに社会的適応能力の向上を目的としたリハビリテーションを実施しております。各利用者のニーズに応じたリハビリテーションの提供を通じて、利用者の健康増進と社会参加の促進を図るとともに、当事業所が理念の1つとして掲げる「障害がある人もない人も、全ての人が違いを認め合い、支え合う共生社会を目指す」を実現していきたいと考えております。



太陽ホーム

生活支援員(看護師) 佐藤 美幸

太陽ホームは、日高町・御坊市内に男女あわせて10か所のグループホームがあり、地域において身体及び精神の疾患等を持ちながらも、共同生活において自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、日常生活上の支援を行っています。私は、グループホームの支援員兼看護師として、日常生活の支援や通院介助・薬の配薬・健康診断のチェック・予防注射の調整等を行なっています。関係機関と協力し、利用者様とご家族様をサポートできるよう心がけています。これからも、利用者様一人一人を大切に考え少しでも寄り添える支援が提供できるよう努めていきます。



24時間あんしんコールセンター

相談員 崎山 侑哉

24時間あんしんコールセンターは、障害がある方たちの日常の心配事や不安なこと、その日の出来事などの話を聴くことで、安心して過ごせるように電話相談を行っています。また、引きこもりで生活に生きづらさを抱えた人の訪問も行っています。私は、主に電話相談を担当しています。例えば、不安で眠れない時や気持ちがしんどいと言った時は、安心出来るように相手の心に寄り添うように心がけています。電話を終える際に、「ありがとう。」「聴いてくれて助かりました。」等の言葉を頂くと、モチベーションが上がり、メンタルが整います。



児童発達支援センター通園みらい

児童発達支援管理責任者(保育士) 皆川 響子

子どもたちの興味を引き出しながら、子どもが自信をもって活動に取り組めるよう保育士や児童指導員が子どもたちの成長を見守っています。管理栄養士が子どもの栄養バランスを考え調理員が手作りの給食を提供しながら食育にも努めています。また、子どもたちが日々過ごしている通園みらいでの様子を、保護者と一緒に参加してもらう機会を取り入れています。さらに、保護者との関わりを密にとり、子どもの成長と一緒に悩み、喜び合いながら親子で楽しい日々を送ってもらえるよう支援しています。この地域に一つしかない児童発達支援センターとして、様々な関係機関と協力し連携を計りながら未来ある子どもたちがそれぞれの地域で生活しやすい社会になることを目指しています。

通園あこう

児童発達支援管理責任者(保育士) 村岡 賢一

『通園あこう』は放課後等デイサービス事業で、対象児童は成長や発達が気になる小学生から高校生までです。通園あこうの職員は保育士、児童指導員、児童発達支援管理責任者の資格所持者が働いています。保育士・児童指導員の業務内容は支援を要する利用児に支援を提供します。児童発達支援管理責任者の業務内容は個別支援計画（個々の児童に合わせたサービス提供を示した書類）の作成や保護者への相談支援、関係機関との連携、利用児の支援等があります。職員が利用児と一緒に設定活動等の活動を通して生活体験やコミュニケーションを積み重ねます。利用児がよいこと、悪いことを経験し積み重ねる中で、より良い支援を目指します。



ヘルパーステーションあおぞら

訪問介護員(介護福祉士) 新谷 尚美

ホームヘルパー（訪問介護員）は、介護を必要としているご利用者様の自宅に訪問して、日常生活のサポートを行っています。ご利用者様やそのご家族の希望に沿ったケアプランに基づき、入浴介助や食事介助、家事支援、服薬確認、通院介助、移動支援など多岐にわたります。また、支援だけでなく体調や近況をお伺いし、困っていることや悩んでいることはないか等気かけたりもします。住み慣れた家でできるだけ長く暮らせるように、力になりたいと思っています。時に「ありがとう」「来てくれて助かったよ」と言われると嬉しいです。ご利用者様の気持ちに寄り添って、安心、信頼されるホームヘルパーを目指します。



御坊・日高地域障害者生活支援センターあおぞら

相談支援専門員(社会福祉士・精神保健福祉士) 柳川 ちあき



私たち相談支援専門員は、障がいのある方が適切な障害福祉サービスを活用できるように事業所と繋げたり、ご本人様やご家族様の生活全般に対する悩みの相談を受けて情報提供や助言を行っています。障害福祉サービスに関することをはじめ、住まいや地域生活といった暮らしに関することなど、さまざまな相談に応じています。不安や悩みを傾聴し、ご本人様とご家族様が地域で日常生活を安心して笑顔で暮らしていけるよう、多職種と連携して支援しています。専門職としての知識を豊富に身につけ、支援の幅を広げられるよう頑張っています。

紀中障害者就業・生活支援センターわーくねっと

就業支援ワーカー 大沼 義記

紀中障害者就業・生活支援センターに昨年から配属になり、就業支援ワーカーをさせて頂いています。就業面や生活面の相談業務、職場に訪問して職場実習の支援等を行っています。約20年間異業種で営業職を経験してきましたが、障害福祉の仕事をする事は初めてで戸惑う事も多いです。就業先にご本人と面接に同行し採用された時に一緒に喜んだり、就職先で定着している姿を見ると嬉しく思います。地域の関係機関や企業の方々とアイデアを出しあったりして連携を行いながら『本人の思い』を支援者目線で決めつけず、思いを『大切』にできるよう考え支援し、ご本人が自立し、より良い生活を続けるように、日々努力を惜しまず精進していきたいと思っています。



御坊・日高地域活動支援センター

支援員 北岡 英樹



御坊・日高地域活動支援センターでは、地域の利用者さんの生活のリズムを整える支援を行っています。「健康増進」で気持ち良く日中が始まり、実際の商品をつくる「軽作業」では、参加される方の中に、就労継続支援B型を目指す方もおられるため、他の関係機関と連携して、利用者さんの自立を目指しています。こころのリフレッシュとしての「創作活動」では、四季折々の作品が生まれ、リクエストから行き先が決まる「余暇活動」やスポーツ、社会見学の「レクリエーション」など。個々に応じた生活応援ももちろん、利用者さんたちの毎日毎日が、新しい一日になるように取り組んでいます。